□には、リンクがあります。※は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム こまくさ ※
日付	平成17年8月29日
評価機関名	特定非営利活動法人 高齢者と痴呆の人のケアを大切にする会 LIFE SUPPPORT推進グループ 評価調査員 老人保健施設介護実務経験5年、居宅支援事業所介護支援専門員経験5年 評価調査員 在宅介護経験11年 評価調査員 在宅介護経験9年 評価調査員 在宅介護経験9年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る（改善状況のコメントがあります！）※

外部評価の結果

講評

全体を通して（特に良いと思われる点など）

「物忘れすると辛い。物忘れがひどくなり、どう書く事分からない・・・」利用者の書いた文を職員が見つけ、その利用者の苦しみをじっくりと噛み締める。利用者同志でも、自分の苦しみや辛さを、リビングで何気ない会話の中で平気で活発に話し合っている。利用者本人も、物忘れを認め、同じ痛みを持った仲間同志が「今、ここで」を大切にして笑顔溢れる生活を皆んなで目指しているのは、このグループホームの目指しているケアのあり方あっての環境の元で可能であると痛感した。利用者の不安な思いを共感傾聴し、利用者の苦しそうな表情や行動を見落とさない。そして何事にも真剣な表情で利用者に接している職員が、手伝いでなく、利用者の道具になって支えてくれていることは、家族の立場からすると「ここまで考えて貰えて・・・・」と嬉しく思い、満足しているだろう。

管理者と職員は、今この段階で満足することなく、家族からももっと要望を聞き、近隣のグループホームとも研修を重ね、終わりなき向上を目指している。

利用者の心は「赤ノート」に、スタッフの日々の積み重ねが「ゆったりノート」「こまくさ日誌」に情報満載である。『ゆったり我が家こまくさ』は、利用者や家族、スタッフ全員と来訪者等のこまくさ生活の集大成を満載し、毎月家族や関係先に配られる。

特に改善の余地があると思われる点　　次のような提案をした

今のままでも、満足なグループホームであるが、地域の中で更なる発展を期待して、次の提案をしたい。

利用者の今の生活振りを尊重しながら、「管理者・職員」と「利用者・家族」と「地域（近所）」の三者が、常に連帯しながらも、時と場合によって主役が変わり、三位一体となって高齢者の住む地域のモデルづくりをして貰いたいと願う。

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	

記述項目　グループホームとしてめざしているものは何か

利用者は認知症になってしまったけれど、又新たな人生をここから始めて貰うために、利用者の思いに共感し、傾聴し、利用者が主役である体験ができる事をみつけてあげよう、職員のケアの良し悪しは、利用者の笑顔をバロメーターとして自己評価している。こんなケアが、一人ひとりに見合った質の高いグループホームの生活を成り立たせている。

Ⅱ生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	

記述項目　入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か

馴染みの使い慣れ道具を置いたり、利用者の一人ひとりの家にあった品物を思いのまま飾って落ち着いた部屋をつくっている。○○さんの部屋には、軍隊日誌があり、職員の理解できないことや言葉は貼り出して、それを利用者と共有し、理解しようとしている。こんな努力は家族にとってとても嬉しい。

ホームの近くに農園があり、トマトやきゅうり、スイカが植えてある。近所の小学生と一緒に苗を植えて収穫を楽しみにしている。

Ⅲケアサービス

番号		できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

Ⅲ ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	

記述項目　一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

「だれか、わかっとん？」「わかっとるわ～、こっちが○○ちゃんで、こっちが△△ちゃんじゃろ」「よかった。忘れておらんよ～」と娘さんが手をつないで満面の笑顔。「今日のYさんの笑顔、最高ですね。私も嬉しくなります。無理なお願いかも知れませんが、また顔を見せに来て下さい」と職員。「家に居る時は、あんな顔見たこともなかった。ここの生活が、とてもいいんだと思います。私達も安心してお任せする事が出来ます」という言葉を頂き、涙が出る程嬉しかったです。

この情景がファイルに綴られている。他にもたくさんあって、職員は日々の出来事をこのように記録している。この1枚で、このグループホームのすべてが分かった。

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	

記述項目　サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。

あけっぴろげで実に楽しい。客の私達はペシャンコになって大笑い。特技をする人は誇らしげだ。（利用者）

利用者への熱い思い、家族の人々の言い出せないでいるかも知れない胸の内へへの思い、自分達だけでなく、地域の人々や周辺の仲間と共に手を取り合って、レベルアップしたいという思いを強く感じた。（管理者）

利用者と家族のような、友達のような仲間のような、生徒のような、いろいろな顔、顔、顔。（職員）

このような管理者や職員に全てを任せている代表。それに家族が加わって、実に楽しいグループホームを形成しているが、『ここまでやれていて、更なる向上心。満足しない姿勢』が現在、未来の高齢者の住まう場所としてのモデルを築くことだろう。